



新津駅①

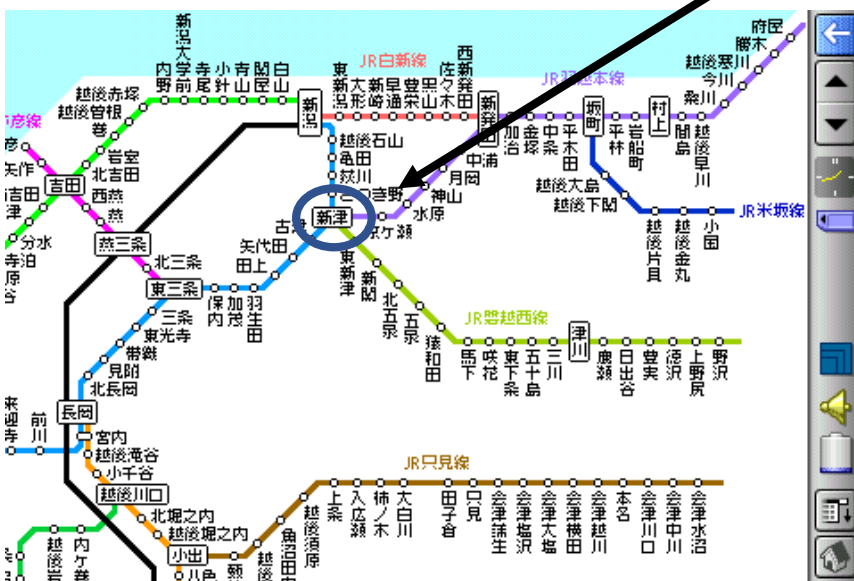


新津鉄道資料館

1、新津とは



旧新津市



新津駅②

・新津とは新潟県下越地方にある地名で、現在の新潟県新潟市秋葉区にあたる。2005年3月21日に新潟市への編入合併をするまでは、新津市であった。

新津駅は現在、信越本線・羽越本線・磐越西線が交わり、もともと古くから鉄道の要衝として栄えてきた町である。

ここでは主に新津と鉄道との関係や、その歴史、現在の新津の町について紹介する。

新津駅へのアクセス：東京駅から上越新幹線にて新潟駅へ。

新潟駅から信越本線新津駅下車（約2時間半）。

## 2、鉄道敷設以前の新津

「新津（にいつ）」という地名は、中世から史料に登場する。江戸時代の新津は新発田藩領の在郷町であり、会津街道、羽越街道が分岐する交通の要衝の町として発展していった。ここから、鉄道開通以前から交通の要衝としての役割を担っていたということが分かる。明治時代に入ると、新津丘陵で石油が採掘されるようになった。この石油という資源の発見が新津の発展においては重要な要素である。

## 3、新津と鉄道の歴史

まず、鉄道開通の初期についてである。

1897年（明治30） 北越鉄道（現・信越本線）の沼垂―ノ木戸（東三条）間が開通。  
新津駅は北越鉄道の中間駅として開業した。

1899年（明治32） 北越鉄道、沼垂―直江津間が全通。

1904年（明治37） 北越鉄道、新潟駅まで延伸。

1910年（明治43） 岩越線（現・磐越西線の一部）、新津―馬下間が開業。

1912年（大正元） 越後鉄道（現・越後線）、白山―吉田間が開業。

新発田線（新津―新発田間、現・羽越本線の一部）が開業。

この時点で新潟県内の鉄道網は次第に拡大し、新津はこれらの鉄道網の中でも結節点のような役割を果たしていることが分かるが、まだ新潟と首都圏は鉄道網によっては結ばれていなかった。

次に鉄道による新潟―首都圏の所要時間短縮の歴史である。

1914年（大正3） 岩越線新津―郡山間全通。新潟―郡山―上野間の所要時間は、  
上り13時間45分、下り12時間47分となる。

新津油田の盛況に伴って新津の人口は増加した。

- 1931年（昭和6） 上越線全通。新潟―清水トンネル（上越県境）―上野間の所要時間は、上り12時間47分、下り12時間5分。
- 1952年（昭和27） 上越線急行「越路」運転開始。新潟―上野間：6時間
- 1962年（昭和37） 信越本線長岡―新潟間の電化完成。上越線初の特急「とき」運転開始。新潟―上野間：4時間40分
- 1982年（昭和57） 上越新幹線、新潟―大宮間開通。新潟―上野間：1時間45分



特急とき（上野駅）



上越新幹線 E1 系（大宮駅）

年表の下線部の箇所「新津油田の盛況に伴って新津の人口は増加した。」とあるように、油田の存在も新津の発展と深い関係がある。この時期に新潟県内でいくつか油田が発見されており、例えば現・柏崎市の西山油田などがある。油田の存在で石油採掘業者や精製会社が集まり、さらに石油という資源に付随して、石油を運び出すためのインフラ（港や道路など）整備や石油関連で集まる膨大な人々に向けたサービス業（タクシー、宿泊業、飲食業など）が発達し、地域全体が発展していく。

つまり、新津の発展は鉄道の要衝としてだけではなく、石油という要素が非常に大きく関わっているということである。

少し話が脱線してしまったが、前述の年表のように時代を経るにつれて鉄道によって新潟と首都圏との間の所要時間が短縮され、精神的な距離感がだんだんと近くなっていった。このことが東京などの大都市への人口の流出を招き、現在の新津での過疎問題へと繋がっていくのだ。

### 3、現在の新津

現在は石油も枯渇し、かつての賑わいは失われたものの、新津鉄道資料館や総合車両製作所を有し、4月～11月の週末を中心に「SLばんえつ物語」号（蒸気機関車 C57-180 号）が定期運行するなど、「鉄道の街にいつ」として知られている。

また、新潟市に合併した後の新津周辺地域（新潟市秋葉区）の面積は 95.38 平方 km で、人口は約 78,000 人である。

#### 4、新津鉄道資料館

『新津鉄道資料館は、「鉄道のまち新津」に1983年（昭和58）に、新津駅の南西にあった旧新潟鉄道病院新津分室の空き建物を利用してオープンしました。1998年（平成10）に旧鉄道学園の跡地である現在地に移転し、2014年（平成26）に200系新幹線電車先頭車両と、C57形蒸気機関車19号機の2両の実車を屋外展示として迎え、屋内の常設展示も大幅にリニューアルしました。開館以来30年以上にわたる当館の活動は、鉄道のまち新津にくらす人々に支えられてきました。鉄道にかかわった人々の想いや、新津の町にいきづく鉄道文化をぜひ感じてください。』

（引用：新津鉄道資料館 館長からのご挨拶 <http://www.ncnrm.com/about/>）

（おまけ）新津車両製作所で製造された車両



209系（御茶ノ水～水道橋）



E233系（横浜～川崎）



E217系（本千葉駅）



E531系（逗子駅）

#### 参考文献

- ・新津鉄道資料館 「鉄道」のまち新津の歴史 <http://www.ncnrm.com/about/history/>  
2017年8月5日閲覧
- ・新津観光協会 花と鉄道と石油の秋葉区 <http://www.niitsu.or.jp/~n-kankou/>  
2017年8月5日閲覧

画像引用

- ・ 新津駅①

[http://kfm.sakura.ne.jp/ekiben/15niigata\\_nitsu.htm](http://kfm.sakura.ne.jp/ekiben/15niigata_nitsu.htm)

- ・ 新津鉄道資料館

<http://www.nta.co.jp/jr/train/kishatabi/column/20151127.htm>

- ・ 旧新津市

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E6%B4%A5%E5%B8%82>

- ・ 新津駅②

[http://vagabond.air-nifty.com/plat/2004/10/\\_v10.html](http://vagabond.air-nifty.com/plat/2004/10/_v10.html)

- ・ 特急とき

<http://www.railstation.net/duke/ressha/ltdexptoki.html>

- ・ 上越新幹線 E1 系

<http://tutuyayaya.exblog.jp/12495218/>

- ・ 209 系

<https://ja.wikipedia.org/wiki/JR%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%AC209%E7%B3%BB%E9%9B%BB%E8%BB%8A>

- ・ E233 系

<https://ja.wikipedia.org/wiki/JR%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%ACE233%E7%B3%BB%E9%9B%BB%E8%BB%8A>

- ・ E217 系

<https://wiki.chakuriki.net/index.php/JR%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%ACE217%E7%B3%BB%E9%9B%BB%E8%BB%8A>

- ・ E531 系

<http://blog-nanpyong.cocolog-nifty.com/blog/2014/09/e531-c525.html>